

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700075		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	小規模多機能ステーション ガーデンコート天王台		
所在地	千葉県我孫子市柴崎台3-9-19		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ヘルシーサービス全社共通にて掲げている社は「お客様、ご家族、地域の健やかな暮らしに貢献する」ことを職員全員が念頭におき、行動するよう努めています。事業所のスローガンである「あなたの心を感じられる私たちがよう。そしてもうひとつの我が家を作ろう。」の実現を目指しお客様、ご家族、地域を巻き込み役割が生かがいにつながるよう支援しています。身体拘束・虐待ののない、安全・安心な生活が営めるよう個々のお客様の尊厳を支えるケアの確立に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

通い、訪問、泊まりのサービスを利用者の状態や要望に応じて組み合わせ、急なサービス変更に関しても柔軟に対応し、利用者、家族の安心感に繋げている。日々の支援においても書道やフラダンス、キーボード、手話、紙芝居、マンドリン演奏などのボランティアの方が毎月事業所に来所され、利用者との交流充実につなげている。また、地域に根ざした活動においても、毎週水曜日に「天王台体力づくり教室」の開催や認知症サポーター養成講座の実施を予定する等、事業所の機能や専門性を活かした取り組みにも前向きに取り組んでいる。小規模多機能サービスの理解がより深まるよう一丸となり取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社是・スローガンを職員全員が共通理解のもと実現を目指している。	会社の社是、経営理念を事務所に掲示しているほか、拠点会議の際に唱和をする事を心がけ、職員の理解が深まるように取り組んでいる。また、事業所スローガンとして「もう一つの我が家」を目指していく事も掲げている。	会社の社是や経営理念の掲示、ホームのスローガンを掲げているが、今後に向けては、職員の理解が確実に深まるように定期的な振り返り及び周知に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事・一斉清掃・防犯パトロールへの参加・協力を実施。近隣の商店への買い物同行等。日常の散歩、週1回の「天王台体力づくり教室」にて地域住民との交流を図っている。	地域のお祭りや自治会の清掃活動に利用者と一緒に参加をし地域の方との交流を深めている。また、毎週水曜日に「天王台体力づくり教室」を開催しており、地域の方が体操に参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアとの交流。 3/30に「認知症サポーター講座」開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回(2ヶ月に1回開催)議題を変えて開催している。ご家族・市職員・地域包括職員・地域住民・民生委員の参加をいただいている。施設で抱えている課題等の報告を行い見・助言いただき運営に活かしている。	会議には、地域包括支援センター、市役所担当課職員、系列事業所職員、地域住民代表者、利用者の方が参加し、2ヶ月に一度定期的に実施している。会議では、事業所の現状報告のほか、参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるよう努めている。	会議は定期的実施しているが、今後に向けては、会議で話し合われた内容等を議事録として作成し、保管されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や変更内容があった際に速やかに報告している。パンフレット・チラシ等のツールを用いて取り組みを報告している。運営にあたり相談報告をし、指導いただいている。	市の担当課の方は運営推進会議に参加され、定期的に状況報告を行う事ができている。また、行政の判断が必要と思われる際には、担当課へ連絡を入れ指示を仰ぐなど、協力関係を築き運営を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	12月予定していた「身体拘束・虐待について」の社内研修は3月開催予定。安全対策として玄関エレベーター・階段はオートロックにしている。	事業所内において「身体拘束・虐待防止」研修の実施を予定しているほか、拠点会議や申し送りを通じて身体拘束をしないケアについてを呼び掛けている。現状、事業所内において身体拘束につながる事例の発生は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	12月予定していた「身体拘束・虐待について」の社内研修は3月開催予定。安全対策が過度にならないよう指導にあたっている。		

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・サブ主任は「管理者研修」において「成年後見制度と日常生活自立支援事業」について学び職員の指導・教育を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改訂・解約の際は理解・納得いただけるよう十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族の要望は個々に聞き取りを行いケアプランに反映し職員と情報共有している。月1回の「介護相談員」の利用。ご家族対象に10月にアンケートを実施。	家族の方からの意見や要望等については通いサービス送迎時に個別に確認している。また、お客様アンケートを実施し運営に関する意見等を収集している。利用者からの意見は日常会話からの収集のほか、月に一度介護相談員の方が来所され、意見等を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は拠点会議・ユニット会議を設け、意見交換の場を設けるほか、個々に面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。昨年夏、職員対象にアンケートを実施。	管理者は、日常的に職員に声をかけ意見や要望、相談ごとに応じる体制を取っている。業務や支援の見直しに関しては、拠点会議やユニット会議時に職員から意見を聞き、日々の支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員が能力を発揮できるよう日常業務や面談等を行い職員個々の状況把握に努めている。能力に応じて外部研修や契約社員・地域社員への登用をすすめている。不安や悩みについてもこちらから声かけをこころがけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員個々の能力の把握に努め法人内外の研修を受ける機会を確保している。27年度は「認知症実践者研修」の受講。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は市が主催している会議・講習会・研修会や分科会に参加し積極的に意見交換をお行っている。「認知症サポーター講座」の講師を近隣の事業者に依頼。		

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントの際にお客様・ご家族の心身の状況の把握に努めている。住み替えによる不安や混乱がないよう対処する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご意向を伺い、契約後もこまめに状況報告・ご意見要望を伺う等し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にお客様の要望や環境について伺い、状況により他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はお互いが支え合える関係づくりの構築に努めている。生活の中で個々の役割が自信と生きがいにつながるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の話をよく伺いご家族との思い出絆を大切に生活に活かせるように努めています。都度協力もいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力いただき、外出や外泊できるよう支援しています。また馴染みの人が来所してこられることがあります。年賀状や手紙のやりとりのお手伝いもあります。	馴染みの人や場所との関係性の継続に向けた支援では、利用者の要望を伺いながら、いつも通っている美容院にお連れしたり、また、利用者の友人との交流も継続できるように交友関係についても確認し、関係継続が保たれるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係は職員は出来る限り見守り必要時環境を変える等し、孤立しないよう工夫している。お客様同士がお互いを把握しているようである。		

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も気軽に相談いただけるよう、経過の確認や相談・支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の希望は出来ることは見守り、出来ないことを協力して行っている。困難な場合でもご家族に相談し助言いただいたり本人本位に検討し行っている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様のこれまでの生活歴はご家族のお話やサービス利用経過を聞く等して把握に努めている。日々の会話の時や職員間での情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状況は見守りや観察・声かけ等で確認し状況変化には職員間で情報共有を行いケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様・ご家族・関係者等他職種で意見交換しプランに取り入れている。	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、アセスメントで得た情報を基に担当者会議において利用者、職員から意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	ケアプラン作成にあたっては、主治医等の意見も確認し、多職種連携で作成できると良いであろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌への記録・申し送りにて職員間の情報共有を行い介護計画の評価・見直しを適時実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様・ご家族の状況の変化や、ニーズの変化は気軽に話しやすい環境を心がけ柔軟に支援できるよう努めている。		

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動するボランティアの利用(将棋・書道等)で趣味活動の継続。平成27年度より畑活動。また、小学校行事への参加や、近隣センターの催し物等の把握に努め支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様・ご家族の希望を最優先としている。ご納得いただいた上でかかりつけ医に適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の主治医は個別に異なるが、事業所で作成している「看護推移シート」において必要時に主治医に利用者の健康状態を説明出来るようにしている。主治医との連携はケアマネジャーが中心となり連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は薬の管理や医療機関との相談、日頃の健康観察の気づきを相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に限らず病院の地域連携室、ソーシャルワーカーに定期的に訪問している。入退院の際には適切な情報提供、カンファレンス等にて情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療関係者と連携をとり、状態にあわせた援助計画を作成し共有・支援している。早い段階から重度化した場合や終末期のあり方をまずはご家族で確認しあう場を持っていただくようお願いしている。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時マニュアル」を活用した研修の実施。定期的に「AED講習」を実施している。事故や、ヒヤリハット報告を全営業所で共有し事故を未然に防ぐ取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・避難場所の掲示と確認・ハザードマップの掲示、年2回避難訓練を実施。地域に告知して参加協力を仰ぐ。職員は「緊急事態初動手順書」を携帯する。	火災を想定した避難、通報、消火訓練、夜間想定訓練を年2回実施している。水害の状況等についてもハザードマップに手確認を行っている。災害時における地域との連携に関しては、今後の課題としている。	災害時における地域との連携強化や災害時に備え備蓄品の確保や災害発生後、家族に対して利用者の安否をどのように伝えていくか連絡方法についてより明確になる事が望まれる。

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はお客様個々の人格の尊重、礼儀とマナーの大切さを共通理解し、実践している。	利用者に対して適切な対応が図れるように、拠点会議やユニット会議、日々の申し送り時に利用者への対応方法について振り返りを行い適切な対応が図れるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様が遠慮なく、思いや希望を伝えられ、制限のない生活が営めるよう意図的な関わりを持つよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日常に楽しみが持てる生活の実現を目指し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用や、ご家族の協力のもと馴染みの美容室の利用をしている。可能であれば洋服はお客様に選択していただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回お客様の希望を取り入れた自炊・季節感の味わえる献立を実施している。日常的に皮むきやおしぼりたたみ、食器洗い、トレー拭き、テーブル拭き等分担し役割として見守り行われている。	利用者の状態を考慮しながら、野菜の皮むきやおしぼりをたたんで頂く作業等に関わって頂けるように支援している。食事を楽しむ工夫では、市内のファミリーレストランへの外食なども取り入れ、普段と違う雰囲気ですら食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は個人記録にて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携歯科医と連携し、個々の状態に合った口腔ケアを実施している。食前に「嚥下体操」を全員で実施している。		

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のリズムの把握と個人記録への記入職員間で共有している。本人が間隔をつかめるよう、定時の声かけをしている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をつけ、状態把握に努めている。 また、食材や適度な水分量の摂取、自宅での情報の共有、医師への相談をし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康管理面から概ねの日程は決めていますが お客様の希望を最優先としている。	利用者の体調やタイミングを考慮し、通いサービス時に週2回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮している。また、菖蒲湯やゆず湯など季節風呂を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の希望を最優先としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は管理者と看護師で行っている。個々の薬の目的・副作用・用法と禁忌事項を職員が理解している。27年度は薬剤師による研修を実施。また必要時医療機関への報告・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の残存能力を引き出せるよう支援している。また、趣味・嗜好の把握に努め、一日が張りのある楽しい時間が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩は積極的に取り入れている。敷地内での昼食会や庭の花の水やり、ドライブ・外食などを実施している。	天候のよい日には、安全を配慮しながら事業所周辺の散歩にお連れしたり、また毎週日曜日を外出日とし、近隣の公園に出かけたり、ドライブやイチゴ狩り、ファミリーレストランへの外食など、定期的に出出できるように取り組んでいる。	

小規模多機能ステーションガーデンコート天王台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様のおこづかいの管理は管理者が行っている。お客様の希望にて職員と買い物等に行くことが可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望に添い、電話や手紙のやりとりはできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安全を考慮し、季節の花やお客様が作ったものの掲示をし季節感のある過ごしやすい空間となっている。	共用の空間は、ご利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所とリビングを設け、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や備品は本人の使い慣れたもの・好みのものご家族に協力いただき持ち込んでいただいている。	泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのもので持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様ひとりひとりのペースに合わせ楽しみながら自立した生活ができるよう工夫している。		